

東京における「地域日本語教育の体制づくり」のあり方【概要】

背景

- 東京における、地域日本語教育のあり方は、地域の実態に応じて様々であり、**全ての地域に対して単一の「体制づくりのあり方」を示し、全ての地域でそれを目指すことは困難**
- 今後各地域（区市町村）が主体的に地域日本語教育の体制づくりを進めていく上で、まず、**各地域が共通して踏まえるべき視点や目標等について、「東京における「地域日本語教育の体制づくり」のあり方」として示していく**

本あり方の対象



※「地域における日本語教育」の推進にあたっては、それ以外の日本語教育を所管する庁内関係局等と情報交換を行っていく

東京における地域日本語教育の現状と問題点

- ① 希望者に対して十分に学習機会を提供・周知できていない
 - ② 日本語教室の安定した運営が困難
- ※ 圏域に捉われない連携の取組が不十分で、情報交換・連携を求める声もある

地域日本語教育の意義・必要性

- 地域日本語教室は、地域における多文化共生を推進する上で重要な拠点
- 外国人が地域で安心して生活するためには、**地域社会とのつながりを早期につくることが重要**
- 地域において日本語を学習する環境を整えることは、外国人が日本語能力を身に付け、地域住民とコミュニケーションをとることや、地域で円滑に日常生活を送ることを可能にするだけでなく、**地域社会にとってもコミュニティの活性化や、共生社会の存続を可能とする**

希望する方に、日本語学習の機会を提供できるよう、地域における日本語教育の体制整備を推進することは、多文化共生社会の実現に欠かせない

1 東京における地域日本語教育の目標

日本語教育を通じて、外国にルーツをもつ人々と地域とのつながりをはぐくむ

⋮

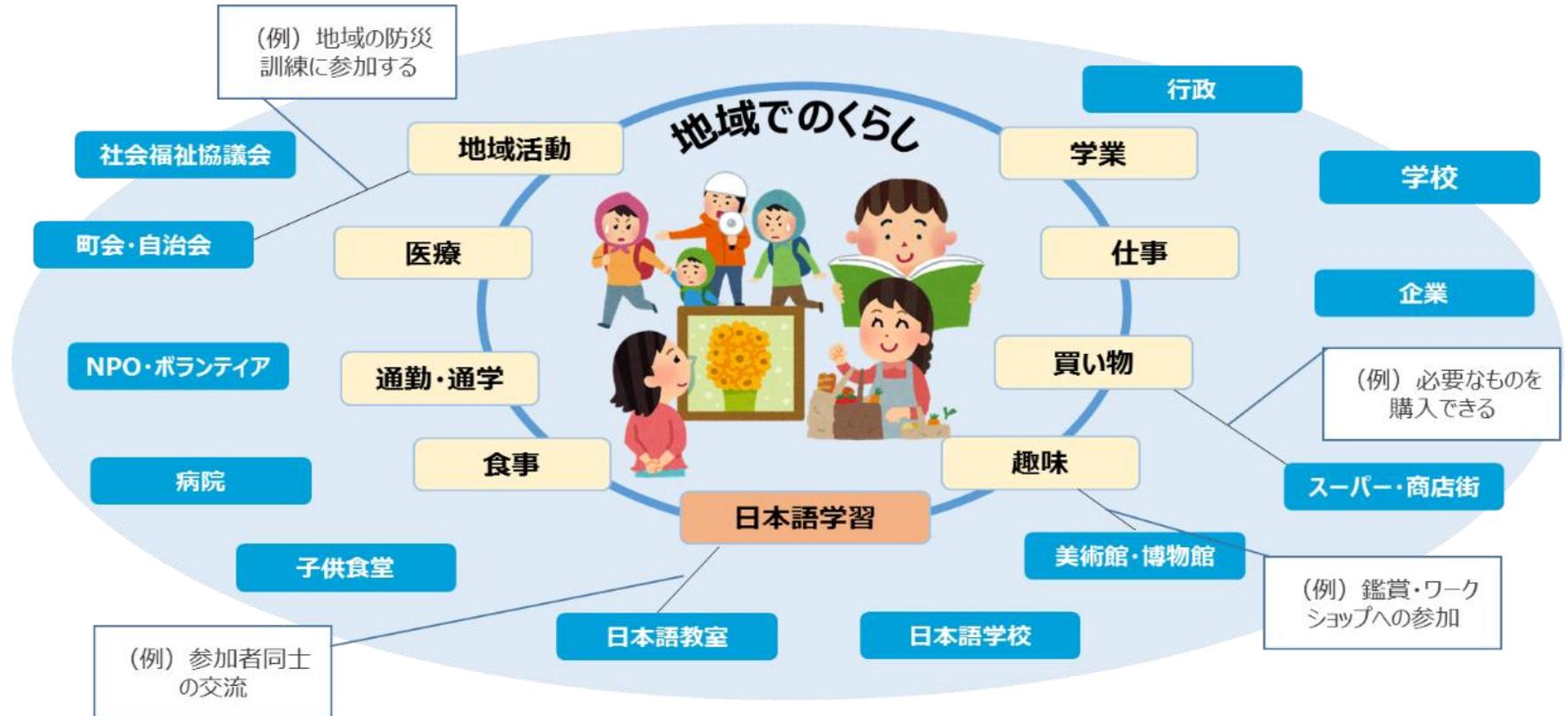
そのために求められる視点

初期段階の日本語教育を保障する



外国人が地域社会とのつながりを持つ

【東京における地域日本語教育の目標のイメージ】

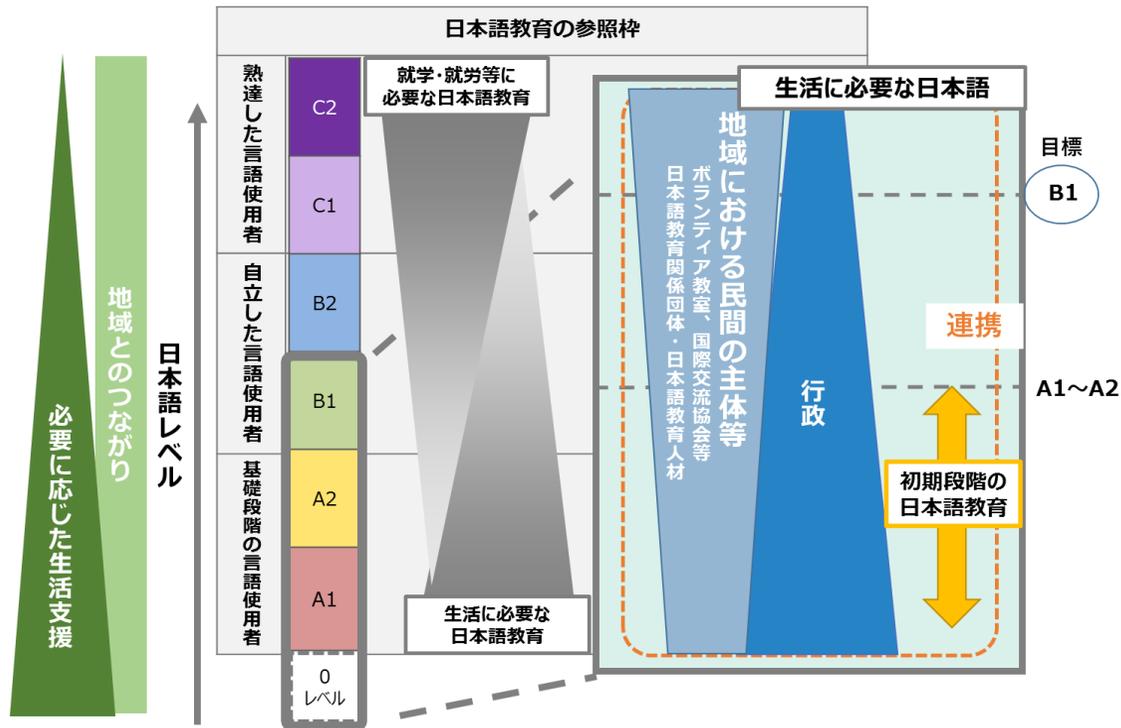


2 東京における地域日本語教育で目指すレベル

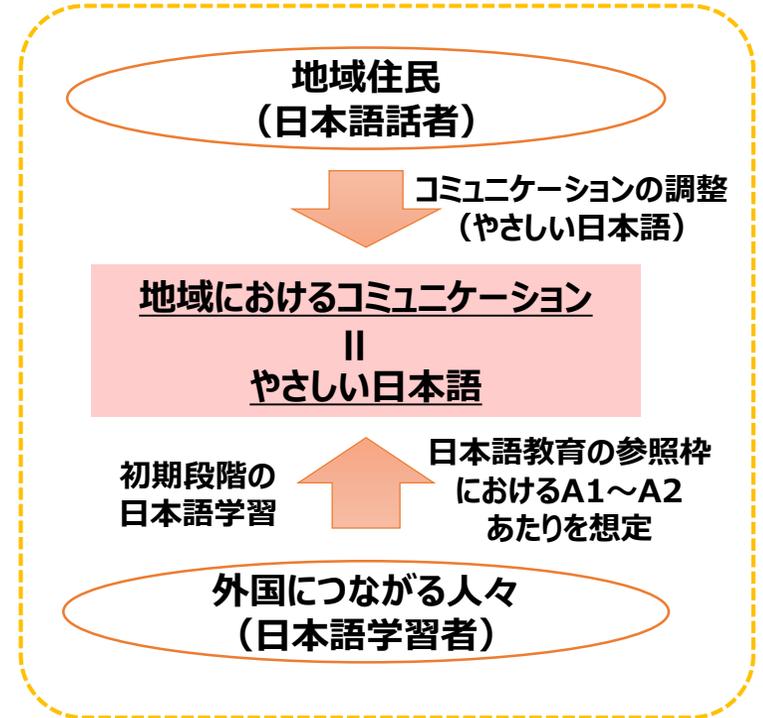
- **地域全体**で目指す東京における地域日本語教育のレベル：**B1(自立した言語使用者)**
- 特に**行政が関わっていくべき**初期段階の日本語教育：**A1～A2レベル(基礎段階の言語使用者)**

やさしい日本語によってコミュニケーションがとれる

【東京における地域日本語教育で目指す日本語レベルのイメージ】



【地域日本語教育とやさしい日本語の関係】



地域日本語教育の推進とやさしい日本語の普及啓発を両輪で進めていく

3 体制づくりに必要とされる要素

○ 区市町村が目標を目指して体制づくりに取り組む際に必要とされる要素

必須要素

- ✓ 地域における共生社会実現のために、体制構築に関する**明確な考えを持っていること**
- ✓ **地域の実態を把握し、課題を理解していること**
- ✓ **2つの視点（※）を持ち、取り組んでいること**

※ 2つの視点：

- ① 初期段階の日本語教育を保障
- ② 外国人が地域社会とのつながりを持つ



地域の実情に応じた要素例

- ✓ 行政主体による初期段階の日本語教育の実施
- ✓ 地域とつながる
- ✓ 地域資源の把握
- ✓ その他の要素

地域に対する東京都の支援

都及び東京都つながり創生財団は広域自治体・中間支援組織として、各地域の取組段階に応じた支援を展開

区市町村等の取組を支援

区市町村単独では対応
が困難な課題へ対応

連携・協働を推進